

「さるかにかっせん」

栗も、

「行くとも行くとも」

といったので、かには、栗にもきびだんごをひとつやりました。こうして仲間がそろったので、なかまみんなでつれだつて、猿の家へむかいました。

猿の家に行ってみると、ちょうど猿は、山へでていて留守でした。

『日本の昔話4』小澤俊夫再話／福音館書店

かにと仲間たちがさるの家に着いたとき、ちょうどさるは留守でした。時間が一致してきます。もし、猿が出かける前だったら、そこで乱闘騒ぎになります。こっそり隠れることができず、各自の特性に合わせた攻撃ができませんね。また、みんなが隠れている最中に猿が帰ってきてても、ややっこしいことになります。こうして時間を一致させることで、ストーリーを単純明快なものにしているのです。

「いばらひめ」

王子がいました。

「ぼくはちつともこわくない。ぼくはそこへ入って行って、美しいいばら姫を見てこよう」おじいさんは、なんとかして思いとどまらせようとしたのですが、王子は、いうことをききませんでした。

その王子が来た日は、ちょうど百年の年月がすぎさるときでした。王子がいばらの垣根に近づいていくと、垣根はいちめん美しい花になって、ひとりでに道を開いたので、王子はすこしも傷つかず、いばらの中を通りぬけることができました。王子が通りすぎると、そのうしろで、いばらはまた垣根になって道をとじました。

『語るためのグリム童話3』小澤俊夫監訳／小峰書店

指につむをさしたおひめさまは、古い女の呪いによって百年の眠りに落ちます。その百年が過ぎ去る時と、王子がやってくる日とが一致したのです。だから王子はいばらの垣根を通りぬけることができたのです。王子がおひめさまにキスをした瞬間と、おひめさまが目覚める百年経った次の一瞬が一致したのです。時が一致したのは、魔法でも奇跡でもありません。これが昔話の語りかたなのです。

## 「白雪姫」

女王は、これを聞くときよろしくしました。白雪姫がまたまた生き返ったことがわかったからです。女王は、こんどは毒の櫛をつく。ました。それから変装して、まずしいばあさんの姿になりました。

女王は七つの山をこえてこびとの家へ行き、とびらをたたいて、

「いい品を売りに来たよ。買わないかい」といいました。

「わたしは、だれもうちの中へ入れてはいけないことになってるの」といいました。けれどもまずしいばあさんは、

「見るだけならいいだろう。この美しい櫛を見てごらん」といいました。そして、毒の櫛をだして白雪姫に見せました。白雪姫はその櫛がすっかり気に入って、とびらをあけてやりました。

白雪姫がその櫛を買おうと、まずしいばあさんが、

「わたしがあんたの髪をとかしてあげよう」といいました。

白雪姫はすこしもうたがいません。まずしいばあさんは、櫛を白雪姫の髪の毛にさしました。すると、白雪姫はたおれて死んでしまいました。

「この世でいちばんの美人もこれでおしまひさ」

わるい女王はそういって、帰っていききました。

まもなく夕方になって、七人のこびとがうちへ帰ってきました。

『語るためのグリム童話3』小澤俊夫監訳／小峰書店

女王が白雪姫のすむ家にやってきた時、七人の小人たちは留守でした。そして、女王が白雪姫を害して帰ってしまったから、小人たちはもどってきました。女王と小人たちは鉢合わせしていません。時間をバチッと一致させることで、ストーリーをすつきり先へ進めています。なお、昔話では、よく留守の間に何かが起こります。

## 「石のカヌー」

むかし、チツペワイヤン族にひとりのわかい戦士がいました。この若者は、部族のむすめにひと夏じゅう求婚しつづけ、初雪がふったら夫婦になる約束をしました。ところがむすめは、ふたりが結婚するはずのちょうどその日に死んでしまいました。

若者はたいそうなげき悲しみ、部族の年老いた女たちが、むすめのなきがらをうめた場所、毎日にかけていきました。

『子どもに贈る昔ばなし⑫』小澤昔ばなし研究所

北米インディアンの昔話。結婚の日に娘は死にます。運命を感じさせる鋭い一致です。